

テーマ：三重県と東京大学との連携で 進めるデータ利活用の世界

■日時：2019年 9月 6日(金) 14:00-17:00

■会場：三重県四日市市鶉の森1丁目4-28
ユマニテクプラザ 3階 セミナー室



■プログラム：

14:00-14:05 開会あいさつ

14:05-15:00 講演 「データ活用社会創成プラットフォーム構想」
工藤知宏(東京大学情報基盤センター教授)

15:10-15:50 事例報告 「AIとIoTを用いた地域経済活性化の取組事例」
大杉慎平(東京大学大学院学際情報学府博士課程)

16:00-17:00 課題整理および総合討論
「三重県と東京大学との連携で進めるデータ利活用の世界」
松原 宏(東京大学大学院総合文化研究科教授
地域未来社会連携研究機構長)

* セミナー終了後、1階の東京大学地域未来社会連携研究機構三重サテライトにて、
名刺交換会を30分程度予定しております。

■参加費：無料 ■定員：100名(先着順)

参加希望者は、以下のアドレスにご所属とお名前を事前にお知らせください。

■問合せ先：東京大学地域未来社会連携研究機構事務局

E-mail: office@frs.c.u-tokyo.ac.jp

■趣旨：

地域未来社会連携研究機構は、東京大学の新しい連携研究機構として、2018年4月1日に設置されました。地域の課題解決に関わる学内の11部局が連携し、統合したプラットフォームを構築することで、研究・地域連携・人材育成の3局面で相乗効果を発揮することを目的としています。

7月19日に機構の三重サテライトにて、「三重県企業におけるIoT・AI導入の課題」と題したワークショップを開催いたしました。今回は、企業の皆様のみならず、自治体、学校関係者など、対象を広げ、東京大学が進めているデータプラットフォーム構想について、その中核を担う東京大学情報基盤センターの工藤知宏教授より、構想の全体像と現在の進捗状況についてご講演をいただくことにいたしました。また、東京大学学際情報学府の大杉慎平氏より、地域の現場でのIoT・AI導入の実態を報告いただきます。これらを踏まえて、松原宏地域未来社会連携研究機構長が、三重県内におけるデータ利活用の可能性について、製造業企業におけるIoT・AI導入、農林水産業や物流のスマート化、スマート自治体、医療、健康・スポーツ、都市、教育などの分野に分けて、三重県内でのデータ利活用の現状と課題について整理し、これを受けて、お集まりいただいた方々と今後の課題について考えたいと思います。